

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 012	提案機関名 (一社) 神奈川県園芸協会 (県花き園芸組合連合会)
<b>要望問題名</b> シクラメンの萎ちょう病、炭疽病防除技術	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 シクラメン栽培では萎ちょう病と炭疽病が最も防除困難な病害虫であるが、特に萎ちょう病は、登録農薬少なく、過去の研究報告をもとにして土壌消毒をしても効果が見られないことも多い。また、温室内の感染ルート の解明も望まれる。 発病を抑えるために講ずべき防除対策の研究とともに、これらの最新の情報提供を願いたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	生産環境部病害虫研究課
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) シクラメン萎凋病の総合防除技術の開発(平成7～9年)			
<b>対応の内容等</b> 平成7～9年に試験研究課題「シクラメン萎凋病の総合防除技術の開発」のなかで、シクラメン萎凋病発生温室において、病原菌が空気中に飛散していることを明らかにしました。また最近、農業技術センター横浜川崎地区事務所が、普及指導課題「シクラメンの高品質生産技術の普及」(平成26～30年)のなかで、シクラメン萎凋病の感染経路について調査を行っており、当課もこれに協力しております。シクラメン萎凋病多発温室におけるこれまでの調査で、残渣廃棄場所(ごみ穴)周辺、また、ベンチ下の土壌からフザリウム属菌が多く検出されることがわかりました。萎凋病など土壌病害の場合は特に、土壌消毒のみで回避することは難しく、ほ場衛生管理を組み合わせることが重要です。感染源となりうる残渣廃棄場所の隔離、ベンチ下土壌の消毒などほ場内の病原菌密度を下げる工夫をしていただくようお願いします。萎凋病、炭疽病防除に関する新たな知見がありましたら、情報提供いたします。			
<b>解決予定年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内		
<b>備考</b>			